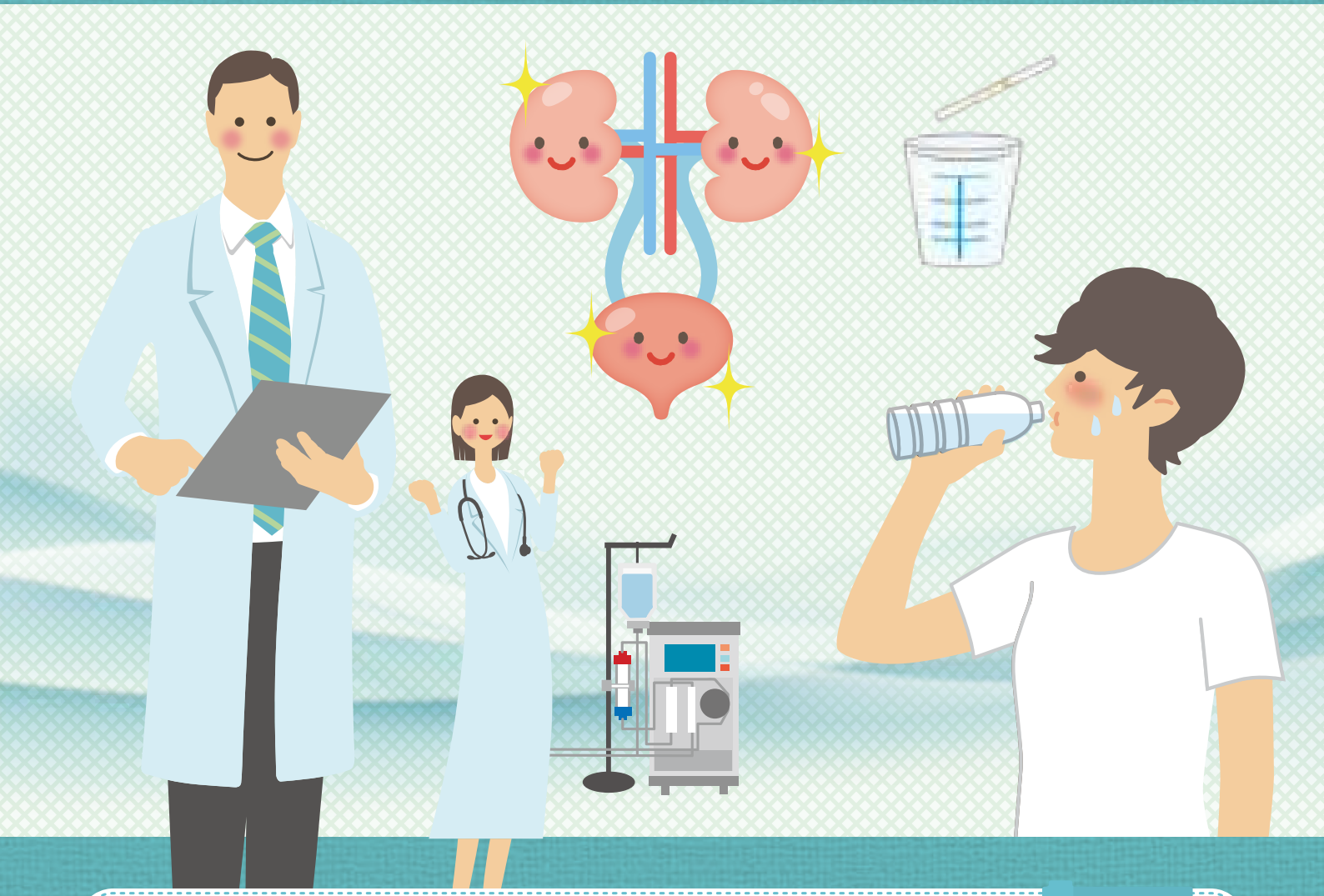
島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ

SHIROUSAGI

2022
69
July.1

TAKE FREE
ご自由にお持ち帰りください



特 集 Special issue 『慢性腎臓病（CKD）について』

インタビュー

- 腎臓内科　准教授……伊藤　孝史
- 泌尿器科　教授……和田耕一郎
- 血液浄化治療部

Contents

＊Professor ～どんな先生?～
＊ボランティアさんのひとこと
＊まるわかり看護部
＊私のここだけの話
＊病院紹介
＊イベントなどのお知らせ
＊しまだい病院のキラ☆めき!

島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

『慢性腎臓病（CKD）について』

“慢性腎臓病”とは!?

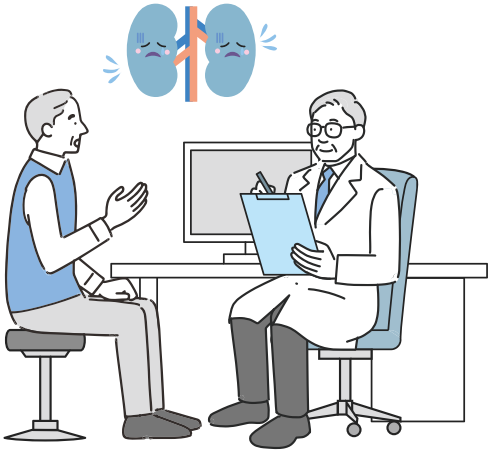
腎臓内科の伊藤准教授に、慢性腎臓病がどのような病気なのかお話を聞きました。

腎臓内科　准教授　伊藤（いとう）　孝史（たかふみ）

慢性腎臓病とは

慢性腎臓病（CKD）は腎機能を表す数値（eGFR）が60%以下になる、またはタンパク尿などが出ている状態をいいます。現在では、成人の約8人に1人がCKDであるといわれています。

この病気の怖いところは自覚症状がないことです。健康診断で引っかかっていても自覚症状がないために病院に行かずに放置してしまい、気づいた時には透析が必要なほどに腎機能が低下してしまうこともあります。腎臓が悪くなると心筋梗塞や脳卒中などほかの病気を引き起こすこともありますので、早く見つけて適切な治療ができるようにしましょう。



健康診断を受けましょう！

自覚症状がほとんどないため、検査を受けないと気付くことができません。血液検査と尿検査によって、腎機能の状態と将来的なリスクを知ることができます。ゆで卵を生卵に戻せないように、病気が進行してしまうと元の状態には戻りません。定期的に健康診断を受けて何かあれば病院を受診し、腎臓の状態を知ることが大切です。

末期腎不全の治療について

腎臓には老廃物を尿の中に出して血液を浄化する働きがあります。腎機能が10%以下になると透析（血液透析と腹膜透析）や腎移植が必要になります。腎臓の代わりに血液をきれいにする治療が透析です。

- 血液透析…週3回の通院。
- 腹膜透析…月1回の通院。毎日自分で行う。

腎臓を守るためにできること

汗の量が多くなるこれからの季節はもちろん、腎臓を守るためには水分をとることが重要です。1日に500mLのペットボトル3本分（1,500mL）の水分をとるように心がけましょう。尿の色が濃いのは水分が足りていないサインです。自分の尿の色をチェックして、水分が足りているか確認してみてください。

慢性腎臓病が進行し末期腎不全に至ると、合併症防止や生命維持のために、腎代替療法（じんだいたいりょうほう）を行うことが必要となります。この腎代替療法について、泌尿器科の和田教授にお話を聞きました。

泌尿器科　教授　和田（わだ） 耕一郎（こういちろう）

腎代替療法とは

腎機能が低下し、末期腎不全に至った場合の治療法を総称して「腎代替療法」と呼びます。腎代替療法には血液透析、腹膜透析、腎移植の3種類があり（表1参照）、このうち腎移植が唯一の根本的な治療（根治的治療）となります。いずれの治療を選択しても、身体障害者1級に認定されます。

〈表1〉

	血液透析	腹膜透析	腎移植
腎　機　能	透析導入時のまま		正常に近いレベル（60～70%程度）
通院回数	3回／週	1回／月	1回／1～3月
免疫抑制剤	不要	不要	不可欠
食事・水分制限	多い（蛋白・水・塩分・K・P）	やや多い（蛋白・水・塩分・P）	少ない
旅行・出張・スポーツ	制限あり（通院透析施設の確保）	制限あり（透析液・装置の準備運搬）	自　由
出　　産	きわめて難しい	きわめて難しい	可　能
小　　児	成長障害	成長障害	成長が期待できる
社会復帰率	中程度	やや高い	高　い
その他の利点	医学的ケアが常に提供される、日本で最も確立した治療方法	血液透析に比べ自由度が高い	本人・家族の、透析による束縛からの開放感

腎移植について

腎移植には生体腎移植と献腎移植の2種類があり、腎臓を提供する方をドナー、提供を受ける方をレシピエントと呼びます。

①生体腎移植…健康な親族（6親等以内の血族、配偶者、3親等以内の姻族）からの提供
②献腎移植…心停止または脳死ドナーからの提供

健康でドナー要件を満たす親族からの腎提供があれば、生体腎移植を行うことが可能です。血液型が一致している必要はありません。生体腎移植の場合、ドナーとレシピエントの相性を確認するためのクロスマッチ検査や感染症検査、必要に応じたワクチン接種などに少し時間を要しますが、受診から約半年で移植手術まで進めることができます。2020年の本邦の実績では、1,711件の生体腎移植が実施されました。検査および手術費用は健康保険等を利用することにより、1～2万円の費用で手術を受けることができます。また、ドナーの医療費もレシピエントの公的医療費で賄われますので、ほとんどお金はかかりません。

献腎移植の場合は、日本臓器移植ネットワークへ登録し、適合するドナーが現れるのを待つことになります。2020年の本邦の実績では、登録者数は13,163人であるのに対し、実際に献腎移植を受けられた方は141人であり、登録してから献腎移植を受けられるようになるまでの平均待機年数は約15年となっています。島根県では、登録の際に登録料と検査料で54,000円、登録更新のために年5,000円が必要となります。献腎移植を受けられた際には斡旋料として臓器移植ネットワークに10万円をお支払い頂きますが、生活保護や住民税非課税世帯の方は免除され、生体腎移植と同様にほとんどお金はかかりません。献腎登録から腎移植を受けて頂くまでに長時間を要することになりますが、献腎登録は腎代替療法が必要となる前段階から可能ですので、慢性腎臓病（CKD）ステージ3～4程度で担当医へご相談頂き、早めに当科の受診と登録を行ってください。

お伝えしたいこと

生体腎移植では、血液型は関係なく腎移植が可能です。いずれの腎移植も費用はほとんどかかりません。献腎移植を行うためには、心停止もしくは脳死ドナーからの臓器提供が不可欠ですので、運転免許証や保険証等にて臓器提供の意思表示をお願いします。また、当院では入院される方に臓器提供の意思表示をお聞きしておりますので、ご協力をお願い致します。腎機能が低下している方は、腎機能を温存するための生活習慣の実践と、腎移植や献腎登録について、主治医の先生と相談をして頂ければと思います。

血液浄化治療部ってどんなところ?

血液浄化治療部は透析室とも呼ばれ、腎不全などで腎機能が低下している方に対して、自身の腎臓の代わりに人工腎臓のフィルター(ダイアライザー)を介して、血液から老廃物や余分な水分を取り除く透析療法を行っています。

また神経疾患や自己免疫疾患、炎症性腸疾患等に対して血漿交換療法や免疫吸着療法も行っています。

◎治 療 時 間:月曜日から土曜日 9時〜17時15分
◎最終入室時間:16時まで

扉の奥はワンフロアになっています。

10ベッドあり、うち2ベッドは個室です。

窓の外には山並みが広がり室内は暖かい光が差し込んできます。

医療体制は、透析当番医(腎臓内科)2名・臨床工学技士2名・看護師4名・看護助手1名です。

最前列中央が血液浄化治療部部長の伊藤先生です。

※撮影時のみマスクを外しています。

透析開始前と終了後には必ず体重測定をします。

透析機器の点検や透析中の血圧や血流などのモニタリングは重要です。

医師、臨床工学技士、看護師が協働して丁寧に確認しています。

透析治療を初めて受けられる方は、心身共に変化が大きい時期のため、患者さんの不安や緊張をやわらげ、安全に治療が受けられるように心がけています。そして、安心して透析生活が続けられるように、スタッフ一同患者さんと共に考え、対応しています。

週1回、医師・看護師・臨床工学技士が集まり、血液浄化治療部で治療中の患者さん一人ひとりについてカンファレンスを行ない、より安全で質の高い治療を目指しています。

Professor ～どんな先生？～

島根大学病院に所属する教授の人柄、専門分野などを紹介するコーナーです。

麻酔科医、こんな仕事をしてます。

麻酔科学講座　齊藤（さいとう）　洋司（ようじ）

麻酔科科長を務めます齊藤洋司です。よろしくお願いいたします。私は麻酔科医として麻酔管理、集中治療、救急医療、緩和医療などの診療に携わってきました。麻酔科というと手術麻酔をイメージされる方が多いと思います。手術麻酔は麻酔科医療の根幹でありますが、安全な麻酔管理も極めて重要で、全身管理と一体となり発展してきました。

近年の麻酔は「生体監視麻酔ケア」と呼ばれ、循環、呼吸、脳神経、代謝など生体の全身管理を横断的に担っています。「生体監視麻酔ケア」は集中治療・緩和医療・在宅診療でもその役割を果たしており、その人らしい暮らしを支えるという視点で、ICU（インテンシブケアユニット：集中治療部）・緩和ケアとも連携して全身管理、ケアを行っています。

このような特徴を活かし地域医療に貢献してまいります。

周術期疼痛緩和と手術部運営のスペシャリスト

手術部　佐倉（さくら）　伸一（しんいち）

皆さんこんにちは、手術部の佐倉伸一です。

手術部教授って何しているの?と疑問に思われる人もいるかもしれませんね。島根大学病院の手術部では毎日多くの手術が行われています。各手術には各科医師の他に、麻酔科医や看護師、放射線技師、臨床工学技士などが参加します。私の役目は、これらスタッフの協力を得て、すべての手術が効率的にかつ安全に行われるように手術部全体を管理運営することです。

一方で私は麻酔科医です。区域麻酔を積極的に取り入れた周術期疼痛管理の領域で患者さんを支えてきました。時代と共に手術方法は変化します。区域麻酔法も同様で以前は硬膜外鎮痛法が主体でしたが、15年ほど前から超音波画像を利用した末梢神経ブロックを行うようになりました。私は区域麻酔の分野で常に世界をリードし、これらの技術を普及させてきました。国内外からの多くの研修医を受け入れ、世界の周術期疼痛治療の発展に貢献しています。

ボランティアさんのひとこと　「こどもの日花火大会」

2007年から毎年5月5日子どもの日にボランティア団体「こどもの日花火の会」による「こどもの日花火大会」が開催されています。

こどもの日花火の会　代表　花火師　多々納　恒宏さんより

「病気は治せないけど、こどもたちが笑ってくれるのを楽しみに花火を揚げています。こどもたちが喜ぶと、ご家族も喜んでくださる。こどもたちだけでなく、患者さん，病院のみなさんが花火を楽しんでくれることに喜びを感じています。」

まるわかり看護部

★MARUWAKARI・KANGOBU★

島根大学病院看護部は、30以上もの部署があります。それぞれの部署はどのような役割を担っているのでしょうか。このコーナーでは、当院看護部についてまるっとお届けします。

B病棟4階・歯科口腔外科・皮膚科・形成外科・放射線治療科・麻酔科　看護師長　高瀬（たかせ）　里美（さとみ）

B病棟4階は、歯科口腔外科・皮膚科・形成外科・放射線治療科・麻酔科の病棟です。外来と一元化されており、看護師は外来と病棟を行き来し、外来受診時から関わらせていただき、外来と病棟間で情報を共有し、切れ目のない支援に日々尽力しています。外来に来られた患者さんにとって「知った顔がある」という安心感は何事にもかえがたいものです。1泊や2泊での短期入院の手術から侵襲の大きい手術や放射線治療などでの長期入院と疾患や病状によって様々ですが、病気と向き合い安心して治療に専念できるように、患者さんの気持ちに寄り添った看護を提供するよう頑張っています。また、治療を受け早期に退院出来るように安心して住み慣れた場所で生活できるよう多職種間で連携をとり退院支援を行うことに力を入れています。看護師、看護補助者や多職種と力を合わせ「心と身体の健康を維持し、生き生きと暮らすために」を大切に一丸となって支援いたします。

放射線部・光学医療診療部　看護師長　杉本（すぎもと）　静（しずか）

放射線部・光学医療診療部では、放射線や超音波を用いて気管支・胃・大腸・膀胱などの内視鏡、超音波検査、脳・心臓・胸腹部・四肢のカテーテル検査や治療、CT（コンピューター断層撮影装置）・MRI（磁気共鳴画像診断装置）・PET／CT（陽電子放出断層撮影装置）など様々な検査や治療を行っています。最近は消化器がんの内視鏡治療や不整脈のカテーテル治療も増えてきました。そのため、緊急を要する処置にも迅速に対応できるように知識や技術の習得に励んでいます。カテーテルを用いる検査・治療や消化器内視鏡の検査・治療に専門的な知識を習得している看護師もいます。

患者さんが安心して検査や治療をうけていただけるように、患者さんの不安な気持ちに寄り添い、多職種と協力して笑顔で丁寧な関わりを心がけています。

私のここだけの話

「ハワイの風」

循環器内科　教授　田邊（たなべ）　一明（かずあき）

2015年1月にエコー・ハワイという講習会の講師で招かれ、ハワイ島に数日滞在しました。ホテルのロビーには屋根と柱はあるものの窓や壁など外と遮るものはなく、寒風が吹き抜けることなど想定していない様子でした。講演が最終日でしたので、それまでは緊張していましたが、無事に講演を終えた午後、部屋の窓を開け、ベッドに横たわるとゆるやかに吹く風がなんとも心地よく、まさにこの世の楽園でした。出雲でも窓を開けて、目を閉じてみるとハワイのような風を感じる日もありますが、日常を離れてあの風を感じにまた行けたらいいなと思います。

ホテルの窓から

病院紹介①
感染制御部

副部長 羽田野（はだの） 義郎（よしろう）

2022年3月1日付けで、感染制御部准教授として着任し、今年度、副部長に就任いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

感染制御部は、院内や地域での感染症対策、予防を担当している部門です。医師、看護師、薬剤師、微生物検査技師、事務職員など多職種で構成されており、それぞれの専門性の視点を活かして活動しています。現在はCOVID-19への対策が多くを占めていますが、医療関連感染の防止、抗菌薬が効きづらい薬剤耐性菌への対策、結核などその他の感染症の対策など、業務内容は多岐にわたります。COVID-19はまだまだ予断を許さない状況が続いていますが、患者さんや医療従事者の安全を第一に、大学病院および県内の感染症対策・予防に尽力いたします。外来、入院、様々な場面で手指衛生、マスク着用などの感染対策にご協力いただきありがとうございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

病院紹介②
栄養サポートセンター

センター長 矢野（やの） 彰三（しょうぞう）
副センター長 板倉（いたくら） 正幸（まさゆき）

当センターのおもな活動は、栄養サポートチーム（NST）によるチーム医療です。食事の摂れない方、むせ・誤嚥の危険がある方、やせが進行している方などを対象として、食事の工夫、補助食品の提供、経管栄養や点滴メニューの提案など、栄養サポートを致します。NSTは、医師、歯科医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、リハ療法士など多職種から構成されています。

私たちは、皆さんに口から食べられることの幸せ「口福」を感じてもらいたいと願っています。NSTでは、毎週、体重や採血結果から栄養状態の経過を確認し、食事について患者さんのご希望をお聞きして主治医に栄養計画を提案しています。

栄養治療は全診療科に共通する基本的かつ重要な医療です。私たちは、研修会等で知識を高め、情報共有を図っています。NSTに関してより詳しく知りたい方やご自分のお食事や栄養状態が気になる方は、主治医、看護師、栄養士にご相談ください。依頼がありましたら病室までお伺いいたします。

イベントなどのお知らせ

島大病院　ちょっと気になる健康講座　放送予定（出雲ケーブルビジョン）

2022年7月放送予定

脳神経内科　講師　三瀧　真悟

放送内容：「パーキンソン病ってどんな病気?」

しまだい病院の キラ☆めき！

島根大学病院でキラキラ輝きながら、めきめきと実力をつけている若手医療職員を紹介します。
皆様に信頼される医療を提供するため、今日も笑顔で、真剣に仕事に取り組んでいます。

卒後臨床研修センター　医科研修医　津田（つだ）　洸旬（ひろとき）

医科研修医2年目の津田洸旬と申します。島根県松江市出身で島根大学を卒業しました。

昨年は京都の病院で救急医療を中心に研修させて頂き、今年の4月から島根大学に戻ってきました。本院での研修はまだ2か月弱で慣れないことばかりですが、出身大学で働けることをとても嬉しく思っています。来年以降も島根大学にお世話になる予定ですので、少しでも皆様のお力になれるよう努力してまいります。

A病棟7階　看護師　河角（かわすみ）　麻央（まお）

私は入職して3年目になります。私が働いているA病棟7階は、消化器内科・肝臓内科の病棟で内視鏡治療や血管内治療、化学療法を受けられる患者さんが入院されています。治療に伴う痛みや嘔吐などの症状の早期発見、苦痛の緩和に努め安楽に過ごしていただけるよう看護を実践しています。今後もスタッフと協力しながら、患者さんの思いを傾聴し寄り添った関わりを大切に看護を行っていきたいと思います。

リハビリテーション部　理学療法士　佐藤（さとう）　光（ひかる）

広島で生まれ育ち、島根大学病院に入職して今年で2年目になります。

みなさんが耳にするリハビリは『再び適する状態になる』という意味があります。昨年度の1年間、たくさんの患者さんを担当させていただきました。一人ひとりの患者さんと関わりを持たせてもらい、十人十色の人生、考え方に触れました。リハビリを通して元に戻るだけでなく、未来に向けて少しでも前を向けるサポートができるように精進していきたいと思います。

編集後記

新型コロナウイルスの影響で、マスク着用が日常になりました。最初は息苦しい、話しづらいと感じ、抵抗感が強かった印象ですが、最近ではあまりそのように感じなくなり、反対にマスクを外した表情を見られるのが少し恥ずかしいような気もしてしまいます。

今回の特集は「慢性腎臓病」でしたが、腎臓を守るためには水分補給が欠かせません。マスク生活にも慣れ、ついつい忘れがちにもなりますが、暑い季節を乗り越えるためにも、意識して水分補給をしていきたいと思いました。

次回は、10月発行予定です。

【編集者より】

島根大学医学部附属病院広報誌
しろうさぎ
についてのお問い合わせ先
（このＱＲコードで携帯から島根大学病院ホームページが見られます↑）

医学部総務課　企画調査係　広報担当
☎0853-20-2018
✉mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp
https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/